

2020 年度 研究功労賞推薦書

受賞対象者 兼子 直 先生

兼子直先生は、現在、北東北てんかんセンターを設立し、センター長として東北地域のてんかん診療の拠点病院の運営に携わっておられます。

先生は 1976 年に弘前大学医学部大学院を修了され、同年に弘前大学医学部神経精神医学講座助手に採用、以降 2012 年に弘前大学を定年退職するまでの 36 年間、弘前大学医学部の教員、そして、連合王国ケンブリッジ大学薬理学講座客員教授、中国医科大学名誉教授を含めた国内外の多くの教育研究機関の教育・研究職を兼務され、てんかんだけではなく生命科学の発展に貢献されてきました。

弘前大学では、精神科診療、精神科医師育成、そして弘前大学の先端医科学発展に寄与され、1995 年には弘前大学医学部神経精神医学講座教授に就任、2004 年からは弘前大学医学部長を兼務されております。その業績は精神医学・てんかん学に留まらず、生命科学分野において世界的に高い評価をうけ、日本てんかん学会理事長、日本臨床精神神経薬理学会理事長、ILAE task force をはじめ、多くの学会の要職を歴任されてきました。

特に、てんかん学分野では、学問的確立よりも、現有診療限界をより高い診療レベルへ向上する臨床応用を重視した志向性が強く、結果として学問的確立よりも、新たな研究分野の創成に寄与してきたのではないかと感じています。

先生の膨大な研究業績を要約すると、

第一に、抗てんかん薬の血中濃度測定の有用性を報告し、抗てんかん薬血中濃度測定の保険診療化に大きく貢献しております。

第二は、抗てんかん薬の催奇性研究で、1,000 例を超える、日本、カナダ、イタリア、フランスの大型データベースを 20 年間かけて構築し、抗てんかん薬の催奇性の主要原因薬がバルプロ酸であることを同定しております。この報告は、その後の欧米の大規模研究でも支持され、妊娠可能年齢女性患者への抗てんかん薬の薬物療法ガイドラインには、必須論文の一つとなっております。

第三に、てんかん責任遺伝子の解析では、世界屈指の大型遺伝子バンクを設立し、多くの責任遺伝子の発見に貢献されてきました。

第四に、てんかんの責任遺伝子を導入した遺伝子改変モデル動物を多数作出し、遺伝子だけでは解明できなかった、てんかん病態の核心に迫る研究を行い、てんかんの発症前介入による、発症予防の可能性も証明されております。

現在は、この第四の研究業績に基づいた、多施設介入研究を開始されており、近く革新的な研究結果が得られるのではないかと期待しております。

以上の華々しい職歴・研究業績に加え、次世代を担う研究者の育成にも尽力され、先生の学際的志向性も加わり、先生の師事を受けた研究者は、国内外の大学医学部の教授に就任しておりますが、その分野は、精神医学、脳神経内科学、小児科学、薬理学など多岐に渡っております。

一方、あまり知られていませんが、大学研究者にとって大きな影響を与えた功績として、日本学術振興会・文部科学省が所轄する科学研究補助金の審査・配分システムの改善に尽力されております。日本学術振興会科学研究補助金は、世界屈指の審査体制として高く評価されていますが、先生は、この審査システム構築メンバーとして、科学研究補助金審査の機密性・透明性・公平性・経済性の向上に尽力されております。同様に、てんかん治療研究振興財団の発展にも尽力され、2006年から評議員、2012年から理事、2016年からは企画委員長を歴任し、本財団の発展にも大きく貢献されてきました。

以上の如く、現在の日本のてんかん学を育てられた指導者の一人である兼子直先生は、研究功労賞受賞者として十分な業績を持ち、また貢献度は非常に大きいことから、ここに推薦いたします。

三重大学 大学院医学系研究科 精神神経科学分野 教授
岡田 元宏